



【久田学園・佐世保女子高 校長】久田順子さん

食べることは生きること!! 「食」を通して情愛の深い人間を育てたい

「はしの持ち方」は食文化向上キャンペーンの一環



昨年、「はしの持ち方」を入試に導入して話題を呼んだ佐世保女子高。今、注目の「食育」は、すでに100年前の創立当初から実践されている。今回は久田順子校長に、満を持して登場していただいた。

時代と共に感じる
食への思いは？

わたしたちの子どものころは何しろ空腹の時代でした。学校から帰ってくると草取りに出かけるんです。おやつ代わりにペンペン草もカヤの白い根っこもかじりました。「食べるのが生きること」で、好き嫌いをする余裕もない。いつでも好きなものが食べられ、食べ残しを許す今とは大違いです。一方、国内の食料自給率は40%を切っていて、食の安全や天候不良で、輸入もままならない。私は「食」について真剣に考えなければならぬ、ちょうどよい時期が来たと感じています。

校内での食の取り組みを

昭和56年から続いている「スクールランチ」は本校独自の取り組みです。週3回、生徒が当番制で調理した温かい食事をみんな

なで食べ、卒業するころには全員が料理上手になっています。

食事は生涯かかわること。温かい食事を作ってお母さんの存在は、子どもの心の成長にも影響します。心の尺度を測るのは難しいけれど、温かい食事は情愛を育てる礎になる。それは市場原理や数値目標で育つものではなく、まじめな日々の営みの中にあると思います。それを実践する「まじめで愉快な学校」が私の理想です。

大切にしたいことは？

「はしの持ち方」を入試に導入したのは、そこから子どもたちの生活が見えてくるからです。最近、テレビのグルメ番組には心がありません。出演者の「はし使い」もまずい。私は、全国のテレビ局に食文化向上キャンペーンと称して苦言を呈したほど。日本人が本来大切にしてきた感謝の心、礼道はどこにいったのか。

修学旅行で海外を訪ねるのも日本を外から見つめてほしいから。多くの生徒が「ヨーロッパの夜は暗いなあ」と言います。日本も昔はそうでした。夜、静かに思索する時間も必要です。失われつつある日本人の魂を日本人として大事にしていきたい。

Hisada Junko

Person Data

久田学園佐世保女子高等学校 校長 久田順子さん
 ■1936年佐世保市生まれ ■東京家政大学卒、県教育委員会委員、県都市計画審議会委員などを歴任 ■学校法人久田学園理事長、久田学園佐世保女子高等学校校長
 【MEMO】久田学園佐世保女子高等学校(普通科)…佐世保市比良町21-1、☎0956-22-4349 ■1903(明治36)年、久田ワキによって創立。佐世保の女子教育の基礎を築いた。生徒による手作り全校給食「スクールランチ」実施、食育ECOモデル実践校、「おにぎりンピック」開催、入試に「はしの持ち方」を導入するなど、食育への取り組みは群を抜いている。



▲校舎は、JR京都駅や札幌ドームの設計で有名な原広司氏の設計

▲佐世保港を見晴らす絶好のロケーションに建つ

▲手作り全校給食「スクールランチ」。取材日に調理当番だった1年生の皆さん